

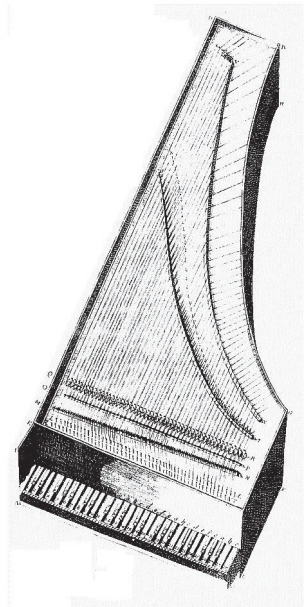
# 小さな音楽の集い

バスリコーダーとチェンバロの通奏低音によるリコーダーソナタ  
リコーダー2重奏、チェンバロソロ

アルト&ソプラノリコーダー  
齊藤文誉

バス&アルトリコーダー  
本村睦幸

チェンバロ  
中川岳



バスリコーダーとチェンバロの通奏低音によるリコーダーソナタ

コレッリ: ソナタ 作品5の10

ヘンデル: リコーダーソナタ 二短調 HWV367a

リコーダー2重奏

テレマン: パリの2重奏ソナタ 第2集 第6番

チェンバロソロ

ベーム: 組曲 二短調

休憩なし60分のトークコンサート

同プログラム3回公演

昼 13:30 開演 (13:00 開場)

夕 16:00 開演 (15:00 開場)

夜 19:40 開演 (18:30 開場)

2016年1月15日[金]

Space 415

中野区新井2-48-12

JR中央線/東京メトロ東西線  
中野駅北口より徒歩12分

野方警察署近く、区立野方児童館の隣  
「芦野」の表札がある入口を入ってすぐ右の建物の2階

全自由席 ¥3,000 要予約

■ご予約・お問い合わせ

デ・ルストホフ: [lusthof.concerts@gmail.com](mailto:lusthof.concerts@gmail.com)

あしの: 090-6045-9311

<http://mutsuyukimotomura.com/>

中野の Space 415 での「小さな室内楽」は、アムステルダムを拠点とし、リコーダー製作者として第一線で活躍し、演奏家としての経験も豊富な齊藤文誉氏のリコーダーソロを、若手チェンバリストとして注目を集める中川岳氏のチェンバロと主催の本村睦幸のバスリコーダーによる通奏低音でお聴きいただくほか、リコーダー 2 重奏、チェンバロソロもというプログラムです。内容豊富ですが、トークを含め、休憩なし 60 分のプログラムで、同プログラム 1 日 3 公演行います。より一層リラックスした雰囲気でお楽しみいただけるかと思えます。ぜひおいでください。



中野駅より徒歩約 13 分、赤系、青系矢印どちらからもいっしょに歩けます。が、お薦めは北口左手のエスカレーターを上り平和の森公園を通り抜ける青系コースです。

#### 齊藤文誉 Fumitaka Saito (リコーダー)

立教高校在学中にリコーダー製作を決意し、多田逸郎氏にリコーダー演奏を師事。高校卒業後、渡独。フライブルグにて G. シェック氏に師事。パーゼル・スコラ・カントルムにてリコーダー演奏を M. ピゲ氏に師事。ピゲ氏所有のオリジナル、ステンズビー Jr. のアルト・リコーダーを参考に独学でリコーダー製作を開始。その後、チューリッヒ音楽院で M. ヴァイレマン氏に、アムステルダム・スヴェーリンク音楽院で W. ファン・ハウヴェ氏にリコーダー演奏を師事。1989 年ドイツ・カルフ・リコーダー国際コンクールにて最優秀後期バロック演奏賞、'92 リコーダーアンサンブル部門第 3 位を受賞。'90・'93 ブルージュ国際古楽コンクール・ソロ楽器部門にて栄誉賞受賞。以降、主にリコーダー製作活動に従事。現在、北ヨーロッパ 15 世紀のポリフォニー音楽を演奏する Aventure メンバー。アムステルダム在住。

#### 本村睦幸 Mutsuyuki Motomura (リコーダー)

アムステルダム音楽院卒。W. ファン・ハウエらに師事。アムステルダムを拠点とする十余年に渡る活動を経て、2001 年に帰国。リコーダー音楽が開いたルネサンス・バロック時代の室内楽の楽しみを現代に活かすことを夢見て、愛好家の方々にとっての聴く喜び、奏でる喜びの双方を見据えた活動を展開している。2009 年には「東京リコーダー音楽祭 2009」(読売新聞社主催)のディレクターを務めた。現在は、リコーダーに本来的な小さなサロンのあり方を探る〈小さな室内楽〉シリーズを東京での活動のベースにおきながら、リコーダーの様々なレパートリーを網羅的に取り上げる〈本村睦幸リコーダーシリーズ〉や、古楽器に限らない多様な演奏家との共演、現代作品の委嘱なども通じてリコーダー音楽の可能性を追求している。CD に「オランダバロックの愉悦」、「バルサンティ:リコーダーソナタ全 6 曲」、「無伴奏リコーダー 600 年の旅」があるほか、昨年は、CD「テレマン:無伴奏フルートのための 12 のファンタジア」に加えて、同曲集のアルトリコーダー版を全音楽譜出版より校訂出版している。ホームページは、<http://mutsuyukimotomura.com/>

#### 中川岳 Gaku Nakagawa (チェンバロ)

1993 年 三重県伊勢市生まれ。4 歳よりピアノを始める。小学 2 年から中学 3 年までピアノを景山貴代氏に師事。中学生の頃よりバロック音楽に興味を抱き、その後当時の奏法、楽器、音楽理解へと関心を広げる。2010 年頃から独学でチェンバロを始め、続いてクラヴィコード、オルガンも始める。2014 年 5 月第 27 回国際古楽コンクール〈山梨〉鍵盤楽器部門において、第 1 位(チェンバロ)を受賞。9 月後半には同コンクール委員長で音楽学者の荒川恒子氏の厚意により、審査員の一人であったチェンバロ奏者・指揮者のグレン・ウィルソン氏にドイツ・ヴェルツブルクにおいて 10 日間のレッスンを受け、その後も折に触れて同氏にチェンバロ、通奏低音を学ぶ。2015 年古楽フェスティバル〈山梨〉において、ステファニー・トゥルー(ソプラノ)、アントン・ババ(バロックチェロ)と共演。現在、東京大学教養学部在学中。